

1 気象情報

(1) 気象経過 (アメダスポイント: 川内)

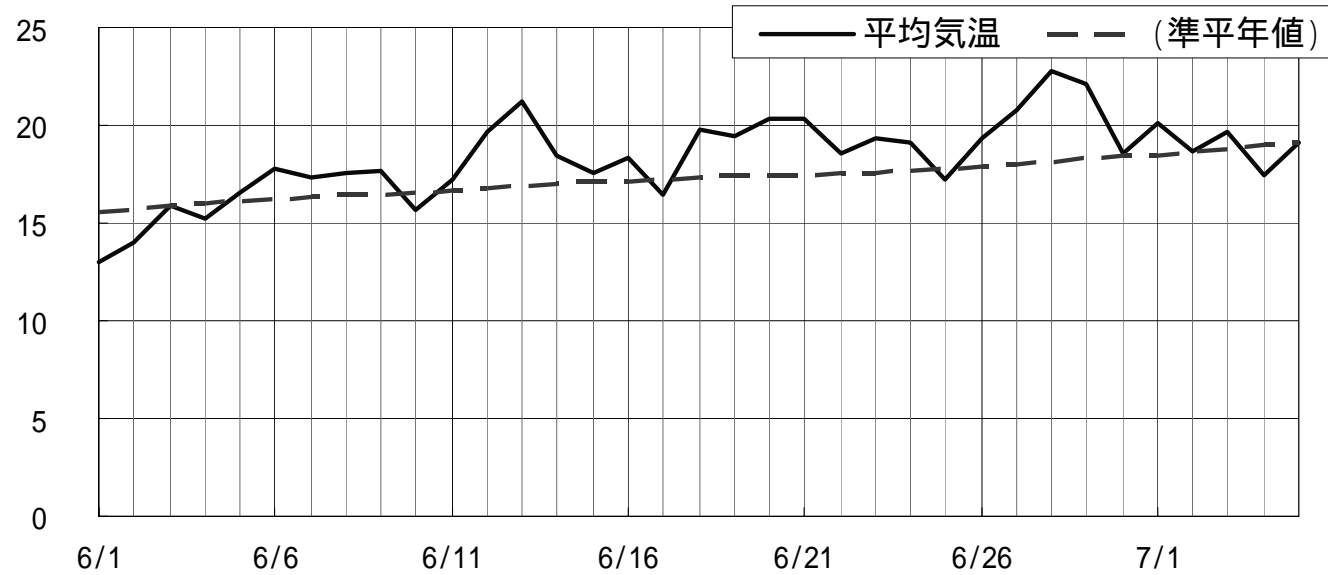
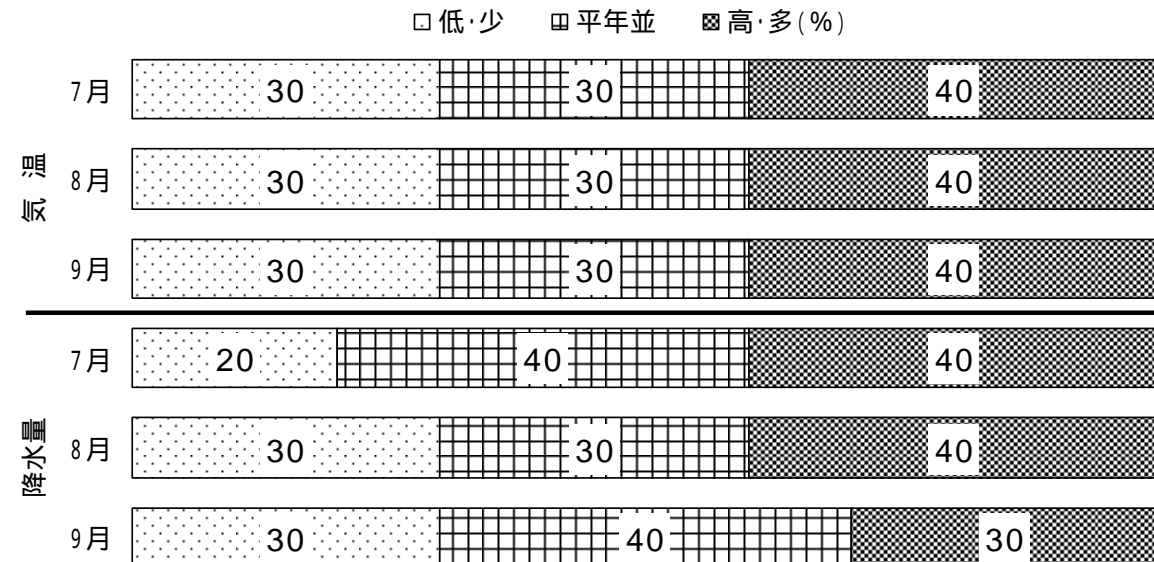


図 1: 6/1~7/5 までの平均気温の推移

表 1: 6/1~7/5 の気温・降水・日照量

	気温 (°C)		降水量 (mm)		日照量 (時間)	
	積算	一日平均	積算	一日平均	積算	一日平均
本年	642.3	4.4	152.5	4.4	161.9	4.6
平年	605.2	4.7	165.5	4.7	118.4	3.4
平年比	106		92		137	

(2) 予想される向こう3ヶ月の予報 (H19.6.25 仙台管区気象台発表)



7月 東北地方は平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。降水量は、平年並または多い確率がともに40%です。

8月 東北地方は平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

9月 東北地方は平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

2 生育状況

現在の生育(表2参照)は、草丈は平年並み、茎数は多い。葉数からみた生育ステージは進んでいる。またコシヒカリでは葉色が褪めたほ場も一部で見られる。このため、追肥(穂肥)のタイミングを逃さないよう注意する。

表 2: 作柄調査結果

調査区	品種名	年次	移植日	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉数 (葉)	葉色 (SPAD502)
檜葉	コシヒカリ	本年	5月11日	34.3	500	8.1	42.1
		平年	5月10日	38.2	504	7.6	41.9
		平年差比	1	-3.9	99	0.5	0.2
大熊	ひとめぼれ	本年	5月11日	34.5	580	8.5	42.7
		平年	5月12日	37.1	498	7.7	41.9
		平年差比	-1	-2.6	116	0.8	0.8
浪江	コシヒカリ	本年	5月4日	38.5	570	9.7	35.5
		平年	5月4日	39.7	482	8.1	38.3
		平年差比	0	-1.2	118	1.6	-2.8
葛尾	あきたこまち	本年	5月13日	31.9	286	7.5	37.7
		平年	5月13日	34.9	294	6.7	38.9
		平年差比	0	-3.0	97	0.8	-1.2

表 3: 幼穂長からみた出穂前日数

生育ステージ	幼穂形成始期		幼穂形成期			減数分裂期	穂孕み期
出穂前日数	26	24	20	18	14	12	6
幼穂長(cm)	0.1	0.15	0.2	0.8~1.5	4.0~6.0	8	18
外形	止葉より下2枚目の葉抽出			止葉抽出		葉耳稈長0cm	

当面の管理について

生育ステージが進んでいます。適期を逃さないように！

3 水管理

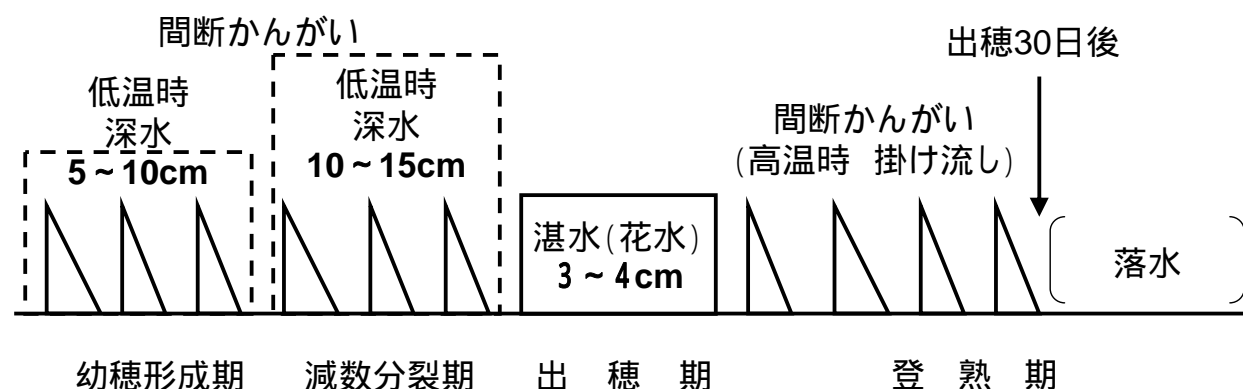


図 2：一般的な水管理イメージ図(7月~9月)

(1) 水管理の基本

- (ア) 幼穂形成期～穂孕み期 間断かんがい
ただし、冷温(20以下)が予想されるときは深水管理
 - (イ) 穂孕み～出穂開花 湛水(花水)管理。
 - (ウ) 登熟期間 登熟を良くするため、間断かんがい。
ただし、出穂後10～20日は、高温時は入水し、地温の低下を図る。また、強風時は深水に。
 - (エ) 落水時期 出穂開花後30日間は、田面が白く乾かないようにする。
- (2) 低温対策(オホーツク海高気圧には注意！)
- (ア) 幼穂形成期に一度冷温(20以下)にあった稲は耐冷性が低下し、その後、減数分裂期に再び冷温にあうと不稔の発生が倍加する。
平均気温20以下が続く場合は、入水する。水深 幼穂形成期5～10cm、減数分裂期15cm以上

4 いもち防除

(1) 葉いもち防除

- (ア) 箱施用剤や粒剤施用ほ場でも発生を見たら直ちに散布剤による防除を行うこと。上位葉の病斑は、穂いもちに移行するので、防除を徹底する。
 - (イ) 早期発見早期防除に努める。降雨が続く場合は雨間散布を行う。
- (2) 穂いもち防除(まず、出穂までに伝染源となる葉いもちの防除を行う)
- (ア) 粒剤を使用する場合は、水深を3cm以上にし、7日間は水を動かさない。
 - (イ) 散布剤(粉剤、乳剤)を使用する場合は穂孕み末期と穂揃期(出穂80～90%の時期)の2回散布する。
 - (ウ) 多発が予想される場合には、7日おきに2～3回散布する。粒剤を施用した場合でも出穂始めから1～2回の追加散布を行う。

表 4：穂いもち防除薬剤使用例

商品名	使用時期	使用量
コラトップ粒剤5	出穂30～5日前	3～4kg/10a
フジワン粒剤	出穂30～10日前	3～5kg/10a

注意！)箱施薬に「デジタルコラトップ」を使用した場合は、本田の防除に「コラトップ」以外の薬剤を使用しましょう。

5 穂肥

- 診断1 これまでの肥料施用量を確認する
- 診断2 生育状況を確認する
幼穂長を確認する
草丈、茎数、葉色、病害の発生
- 診断3 施用時期・量を確認する

表 5：幼穂形成始期(出穂25日前)の生育から見た穂肥の判断

品種名	幼穂形成期の診断日	草丈(cm)	葉色(カラスケール)	穂肥の施肥時期	窒素量(kg/10a)
あきたこまち	7/10	60以下	3.5	7/10頃	1.5～2.0
ひとめぼれ	7/15	60以下	3.5～3.8	7/15頃	1.5～2.0

6 カメムシ防除

- 畦畔等の草刈りは、出穂10日前までに終了する。
(出穂近くの草刈りはカメムシ類を水田に追い込むことになるので実施しない)
水田内にヒエが多発しているほ場では、水稻の出穂前からカメムシ類が水田に侵入するので、ヒエの出穂前に抜き取る。
薬剤防除は、出穂10日後と20日後の2回実施する(表6参照)

7 病虫害防除

- (1) 稲こうじ病(穂ばらみ期の低温と降雨は要注意)
穂ばらみ期の低温(13～15)と降雨、出穂期以降の高温(25～30)で発病が多い。
耕種的防除として、窒素追肥は適量とする(多く実施しない)
薬剤散布の場合は、出穂10日前までに薬剤を散布する(表6参照)
- (2) 倒伏防止対策
〔コシヒカリの幼穂形成期(7月20日頃)の草丈が7.5cm以上の場合は倒伏に注意〕
耕種的防除として、窒素追肥は適量とする(多く実施しない)
倒伏防止には、中干し、カリの追肥、適正な追肥等を総合的に行う。
明らかに倒伏が予想される場合で、倒伏軽減剤を使用する(表6参照)。

表 6：各種薬剤の使用例

防除対象	商品名	使用時期	使用量	使用回数	使用期限
カメムシ	MR.ジョーカー粉剤DL	出穂10日+20日後	3～4kg/10a	2回	収穫7日前まで
カメムシ	スタークル粒剤	出穂5日後	3kg/10a	3回	収穫7日前まで
稲こうじ	Zボルドー粉剤DL	出穂10日前	3～4kg/10a	-	収穫10日前まで
倒伏軽減	スマレクト粒剤	出穂7～20日前	2～3kg/10a	1回	-

MR.ジョーカー粉剤DLは、蚕に長期間毒性があるので、合成ピレスロイド系殺虫剤等の使用規制地域では使用しない。